

東北地方太平洋沖地震と横浜市衛生研究所

田中 礼子

横浜市衛生研究所 検査研究課
〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-17

はじめに

2011年3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震“東北地方太平洋沖地震”が発生しました。この地震は、宮城県栗原市では震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県では震度6強など広い範囲での地震となりました。また、地震直後に高い津波が起こり、東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害がありました。これに加えて福島第一原発の事故が重なり、被災地に大きな影を落としています。まずは、犠牲になった方々や被災された方々に深くお悔やみを申し上げたいと思います。

私が勤める横浜市衛生研究所は震源地付近から約430km離れており、被災地に比べると被害状況は軽微なものでした。しかし、この災害にあたっては当所においても混乱があり、いろいろな問題点が生じています。この場をお借りしまして、私が本震災を体験した中で感じた問題点等を御報告させていただきますと思います。

地震発生時の横浜衛研の状況

横浜では震度5強～5弱の揺れがありました。はじめは小さい揺れでしたが、だんだんと揺れが大きくなり、かなり長い時間揺れが続きました。当所は築43年の建物で、老朽化が進み耐震に問題がある建物とされており、2014年度竣工を目指して現在移転の準備を行っているところです。このため、地震の際には、私を含めた所員全員が屋外に退避し、余震等がおさまるのを待ちました(現在でも緊急地震速報が入る度に屋外退避を行っています)。地震直後は一時通信が途絶え、横浜市役所との連絡が取れませんでした。幸いこれは短時間で復旧しましたが、当所の建物には大きな被害はありませんでしたが、窓ガラス数枚と裏口1階から外へ出る階段が破損しました。建物内部では図書室の書架や、実験室のガラス器具の破損などの被害がありました。さらに、当研究所がある地区は、地震発生と同時に停電となっ

たため、所内では断水が起こりました。また、稼働中の分析機器類が緊急停止してしまいました。これらの機器についてはが正常な復旧が可能かどうか、現在点検作業を行っています。

横浜衛研周辺の状況

当日、首都圏では地震と停電の影響で公共交通機関がストップし、多数の帰宅困難者が生じました。この影響で当所近辺の幹線道路では超渋滞が発生しました。あまりの渋滞に救急車等の緊急車両でさえ通行が困難な様子でした。私も帰宅困難者の一人になってしまったのですが、バスも満員で乗れる状態ではなく、かえって徒歩の方が早いような状態でした。

計画停電のなかで

震災後、東京電力の計画停電が始まりました。当所も計画停電実施区域にありますが、自家発電装置は有しておらず、計画停電中の電気の使用は不可能です。このため、長時間培養が必要な細菌検査や、装置の安定までに時間がかかる質量分析装置を用いる検査等に支障が生じています。一方、非常時における市民生活の安全を確認するための検査の要望も当然あり、対応に苦慮している状況です。計画停電の長期化が予想される中、自家発電装置の購入や、無停電地区への機器類の「疎開」も視野に入れて検討を行っていますが、まだ結論は出ていません。

今後に向けて

現在、当所には原発事故関連の放射能関係検査をはじめ、様々な新規検査の要望が寄せられています。研究所移転に向けて業務の見直し等を始める矢先のことでもあり、この災害で浮き彫りになった問題点にも対応できる新たな衛生研究所を作っていきたいと思っています。